

## 令和元年度 神戸大学経営学部卒業生の皆様へ

ご卒業おめでとうございます。新型コロナウイルス感染症防止の観点から、一堂に会しての卒業式や謝恩会の開催は叶いませんでしたが、経営学部長として皆様のご卒業を心よりお祝い申し上げます。

さて、皆さんご承知の通り、神戸大学経営学部は日本で最初に設立された老舗の経営学部です。一生懸命勉強された皆さんには、学部で開講されている各種の講義やゼミナールでの活動を通じ、最高水準の教育を提供できたと自負しています。

入学された当初には「経営学部って何を学ぶんだろう?」「経済学部とどう違うんだろう?」という漠然と抱かれていた疑問も、皆さんなりに少しは解消されたのではと想像していますが、いかがでしょうか?

経営学を表層的に触れただけの皆さんの中には、経営学とは「企業が利益を出すための方法を学ぶ学問だ」とか、「将来社長になって会社を運営するための知識を身に着けるんだ」とか、「うまくマネジメントして自分がトクをすることを学ぶ学問だ」と理解された方々も少なからずおられることでしょう。…実は、こうした理解は、確かに100%過ちであるとは言い切れない側面もあるのですが、極めて不十分な経営学の理解であると言わなければなりません（もっとも、学部4年間に受けた教育ではそこまで理解が届かないのも無理はありません）。

深く「経営学」を学修すれば、経営学は決して自社や自分自身の利益を考えるだけでなく、逆に他者のために、そして社会のすべての人々が幸せになるように、という思いが、その深層に織り込まれていることに気づかれると思います。（…こうしたことをさらに学修されたい方々は、是非、神戸大学大学院経営学研究科の進学も、選択肢の一つとして今後考えてみてください。）

神戸大学経営学部のディプロマポリシー（学位授与の方針）には、「…知的リーダーシップを発揮できる人材を育成する」とありますが、皆さんがご卒業後、知的なリーダーシップを発揮するということは、何も経営学で学んだ知見を自身の仕事に当てはめ、会社や社員をリードすることのみを意味するわけではありません。

むしろ「知的リーダーシップのある人」というのは、私は確信をもって申しますが、間違いなく、自分自身のことだけではなく、常日頃から他者への思いやりや社会への貢献という視点をもって行動できる人のことを指します。自分自身がどうすれば他者の役に立てるか、社会に貢献できるかをきっちり考え、行動できる人こそが、真の意味でリーダーシップのある人なのです。

経営学のトップスクールである神戸大学経営学部を卒業された皆さんには、「自分を利するため」とか「競争に勝って1番になる」ためではなく、視界を外部へ開き、是非とも「人のため」「社会のため」という視点を忘れることなく、トップスクールである神戸大学経営学部を卒業したんだという誇りの意識を強くもたれて、これからのキャリアを歩んでいって頂きたいと切に願っています。

以上、甚だ簡単ですが、ご卒業にあたって学部長としての臆の言葉といたします。本日は誠におめでとうございます！

令和2年3月25日

神戸大学経営学部長 **上林 憲雄**